

【国際教育・開発教育セミナー'07】
～共に歩む世界を目指して～

開催趣旨

私ども埼玉国際協力協議会（通称・埼玉NGOネット）は、県内の国際協力・交流NGOや国際協力に関心のある個人などが集まったネットワーク組織です。アフガニスタン、ヴェトナム、マレーシア、ラオス、ネパールなどに出掛けて行って交流や協力をしているNGOもあれば、県内にあって日本語教室や情報紙の発行など、在住外国人のために様々な支援活動をおこなっているNGOもあります。それぞれに目的や組織の形態は異なっていますが、私ども共通の願いは、「異なる様々な国の人たちと共生し、優しさと活力に満ちた平和な地球社会をつくっていききたい」ということです。

私どもの協議会は、1996年1月の発足以来、埼玉県国際課及び埼玉県国際交流協会との協働により、「彩の国さいたま国際協力フォーラム」を2000年まで毎年県内各地で実施し、「国際協力のために私たちに何ができるか」などについて、県民の皆さんと共に語り合い学び合ってきました。

折から学校では、2002年度からの「総合的な学習の時間」の本格実施に向け、様々な試みが開始されており、またJICA（現・独立行政法人「国際協力機構」）では、海外協力に加え、「地域との連携」および「開発教育」にも重点を置き始めていました。そこで私どもは、2001年からはJICAと共催し、「子ども達や市民のための国際理解教育・開発教育の推進」を目指し、教員と地域の人々（NGO関係者・学生など）を対象とした「国際理解教育・開発教育セミナー」を実施することとなり、昨年まで6年間にわたり毎年実施してきました。（※今年度より、文科省では、「国際理解教育」を「国際教育」と表現を改めたため、教育現場でも既に「国際教育」を使用しているという実態を踏まえ、私どものセミナーも、今年度より「国際教育・開発教育セミナー」としました。）

さて、過去6年間の私どもの小さな努力を振り返りつつ、その間に生じた、或いはさらに悪化しつつある日本国内や世界の諸問題に目を向けるとき、それらは、世界の国々や人々の「相互の理解」や「思いやり（優しさ）」の不足が大きな要因となっているのではないかと考えざるを得ません。アフガニスタンやイラクだけでなく世界の各地で、戦争・紛争・テロ、深刻な貧困、災害などで苦しんでいる人々は更に増加しています。また、日本国内でも、私たちの安全な生活を脅かす様々な問題や犯罪が日々起きています。私たちは、今や、いかなる「人」も「国」も信じることができない不幸な状況にさらされているような気がします。21世紀を担う子どもや若者たちのために、もっと幸せな地球社会をつくり残していきたいと願っていたはずなのに……。

そこで、7年目を迎えた今回のセミナーでは、「共に歩む世界を目指して」を大きな共通テーマとし、**さいたま会場**では、どちらかと言えば日本の外に目を向け、ネパールの留学生の講演を受けて、「それぞれの立場で私たちに何ができるか」について、共に話し合い学び合いたいと思います。

一方、**草加会場**では、「地域での（外国人との）共生をどう目指していけばよいか」により重点を置いた学び合いを目指しています。同時に、2つの分科会では、ワークショップ（参加型学習）を通して、世界の問題についても認識を新たにしていけるようなプログラムも用意しています。

また、両会場とも、JICAのプログラムに参加して海外の現場を見てきた先生方による帰国後の取り組みについての実践発表もあります。今年度は、じっくりと学んでいただけるよう、例年より随分ゆったりとしたプログラムを組ませていただきました。参加者一人ひとりが、「共に歩む世界を目指して」、それぞれの立場で、明日から更に前向きに生きていかれることを期待しています。

埼玉国際協力協議会（通称・埼玉NGOネット）代表 尾嶋 佐和子